

令和7年度 淡路中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

＜国語＞

学習指導要領の内容について、「知識及び技能」の観点については、「(1)言語の特徴や使い方に関する事項」の区分において大阪府平均より約5ポイント下回っており、全国平均を約6ポイント下回る結果となった。また、「思考力、判断力、表現力等」の観点では、大阪府平均はすべての区分において全国平均を下回っており、本校の平均は大阪府平均よりも下回っている。特に「書くこと」の領域においては、全国平均よりも10ポイント以上も下回っていた。この結果は、「短答式」の平均正答率が全国平均から12ポイント以上下回っていることから影響を読み取ることができる。

＜数学＞

学習指導要領の領域について、「B 図形」の区分については大阪府平均が全国平均を上回っているのにもかかわらず、本校の平均は全国平均を4ポイント以上も下回っていた。また、「A 数と式」、「D データの活用」の区分では、大阪府平均をそれぞれ12ポイント近く下回っていた。問題形式において、「短答式」の正答率が著しく低く、全国平均よりも12ポイント以上も下回る結果となっていた。

＜理科＞

学習指導要領の領域について、すべての区分において本校の平均が全国平均より6ポイント以上下回っており、大阪府平均に対しては、「粒子」を柱とする領域に関しては近似する結果となった。問題形式についても、国語や数学と同様に「短答式」は、全国平均を2ポイント下回り、大阪府平均より3ポイントも下回る結果となった。

【今後に向けて】

現段階で、結果が判明している調査から、本校では学習指導要領の内容に関して「知識・技能」に関する観点に課題がみられる。この課題は、基礎学力が定着していないことが想定され、基礎学力の定着に向けた家庭学習の推進や学力保障の取り組みをさらに強化していかなければならないことが改めて浮き彫りになった。

また、問題形式の無回答率と不正答率の傾向から、修得した知識を解答として文章化することに課題が見られる。今後はより一層、学校行事の感想文や各教科の授業課題などで、文章作成を多く取り入れ、今後、自分の考えを文章化するための力の育成を、学校全体で進めていかなければならないと考え、取り組んでいきたい。